

水産試験場成果発表課題 要約

1. 表層型浮魚礁におけるカツオ漁業の実態

(研究員 藤田朋季)

表層型浮魚礁（以下、浮魚礁）における漁業実態を、沿岸カツオ一本釣り漁船 6 隻への聞き取り調査によって明らかにした。カツオ漁獲量全体のうち浮魚礁の占める割合は、59.6%から 88.9%の間であった。このことから、浮魚礁周辺は沿岸カツオ一本釣り漁業にとって重要な漁場であることが明らかになった。また、カツオは主に 5 月から 11 月の水温約 20℃以上で浮魚礁に集まると考えられる。

2. 熊野灘南部海域における水温の経年変動

(主査研究員 御所豊穂)

熊野灘南部海域で毎月実施している海洋観測の水深別、季節別の水温について、1966～2023 年までの 58 年間の解析を行った。水温はいずれの水深、季節でも上昇傾向で、特に冬季の 0m, 30m, 50m でその傾向が強かった。春季、夏季は鉛直方向の混合が起こりにくく、秋季、冬季は 50～100m 付近まで混合されていることが明らかとなった。

3. アカモク藻場造成技術の開発

(副主査研究員 西條大輔)

アカモク藻場造成技術を開発するために人工種苗生産技術開発及び人工種苗の移植実証試験を行った。人工種苗の生産には、自然採卵での受精卵確保が効率的であり、硬質な基質で種苗の生残が良かった。移植は移植時期が遅いほど成長がよく、移植した次年度には移植第二世代の発生も確認でき、藻場造成に効果的であると考えられた。

4. 抗菌剤を使用しないアユ冷水病防除技術の開発 ～効果と普及性向上～

(主査研究員 堅田昌英)

抗菌剤を使用しないアユ冷水病防除技術の開発に向けて、経口ワクチン試験、浸漬ワクチン試験及びクエン酸ナトリウム投与試験を実施した。ワクチン試験では防除効果を示す再現性のある結果は得られなかったが、クエン酸ナトリウム投与試験では、配合飼料への添加量を 10%にして、長期間（3 ヶ月間）投与することで、冷水病の防除効果が認められた。